

マーガレットの根頭がんしゅ病（新発生）

令和6年4月、日高管内のマーガレットの地際部の茎や根にこぶが発生し、さらに生育不良となり採花ができないほ場も認められた。症状部分から、細菌を分離し、遺伝子配列の相同性解析を行った結果、*Rhizobium radiobacter*によるマーガレット根頭がんしゅ病と同定した。

本細菌は、国内でマーガレット、きく、しゅんぎく、ソリダゴなどのキク科植物や、ばら等での発生が知られている。道内のキク科植物では、きくでの発生が確認されている。

伝染方法はハサミなどによる接触伝染や土壌伝染である。管理作業や挿し芽を行うときの切断した傷口から、汚染した器具や土壌を介して侵入する。また、一般に本細菌は発病部位だけでなく、茎内を移動し株全体から検出されることから、発病株からの挿し芽は本細菌が感染している可能性がある。このため、健全株から挿し芽を採取し、無発病土壌で育苗・栽培を行う必要がある。

（花野技セ・日高農業改良普及センター）



マーガレットの根頭がんしゅ病（花野技セ 佐々木原図）